

## 要 旨

試 験 委 託 者 : 環境省

表 題 : トリポリリン酸二水素アルミニウムヒメダカ (*Oryzias latipes*)  
に対する急性毒性試験

試 験 番 号 : A 0 1 0 4 8 0 - 4

試 験 方 法 :

- 1) 適用ガイドライン: OECD 化学品テストガイドライン No. 203 「魚類急性毒性試験」  
(1992年)
- 2) 暴 露 方 式 : 半止水式 (暴露48時間後に試験液の全量を交換)
- 3) 供 試 生 物 : ヒメダカ (*Oryzias latipes*)
- 4) 暴 露 期 間 : 96時間
- 5) 試 験 濃 度 : 対照区, 0.327 mg/L (試験液調製可能最高濃度での限度試験)  
(測定値)
- 6) 試 験 液 量 : 5.0 L/容器
- 7) 連 数 : 1 容器/試験区
- 8) 供 試 生 物 数 : 10尾/試験区
- 9) 試 験 温 度 : 24±1 °C
- 10) 照 明 : 室内光, 16時間明 (1000 lux以下) / 8時間暗
- 11) 分 析 法 : イオンクロマトグラフィー (IC)

試 験 結 果 :

1) 試験液中の被験物質濃度

被験物質は水への溶解度が低く、他の使用可能な溶媒に対しても難溶なため、試験液調製が困難であった。そこで、被験物質 100mg/L 相当の希釈水懸濁液を調製し、長時間 (48 時間) 攪拌後、水に不溶な被験物質をろ過して除いたろ液を試験液とした。試験濃度は分析して確認した。結果の算出には暴露開始時および 48 時間後の測定値の幾何平均値を用いた。

2) 96時間暴露後の半数致死濃度 (LC50) : >0.327 mg/L (95%信頼区間: 算出不可)